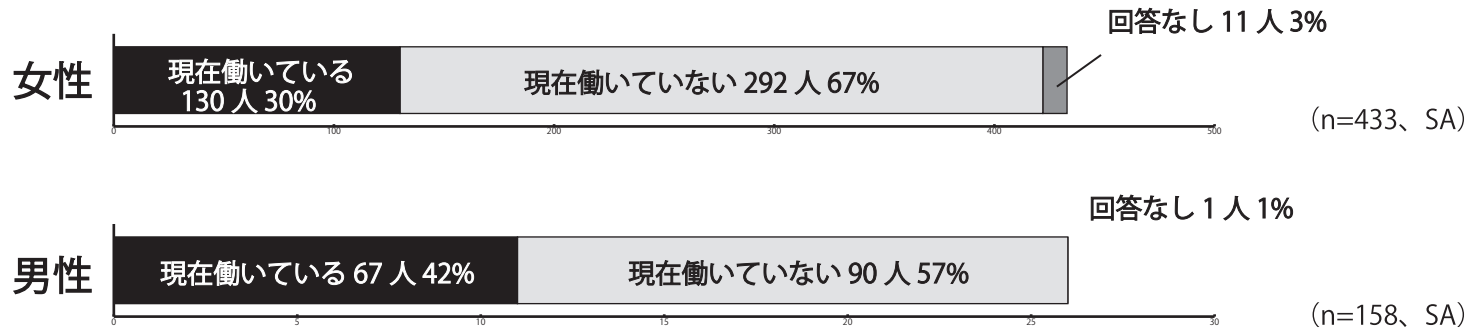


# 高齢者の有償労働 (1)

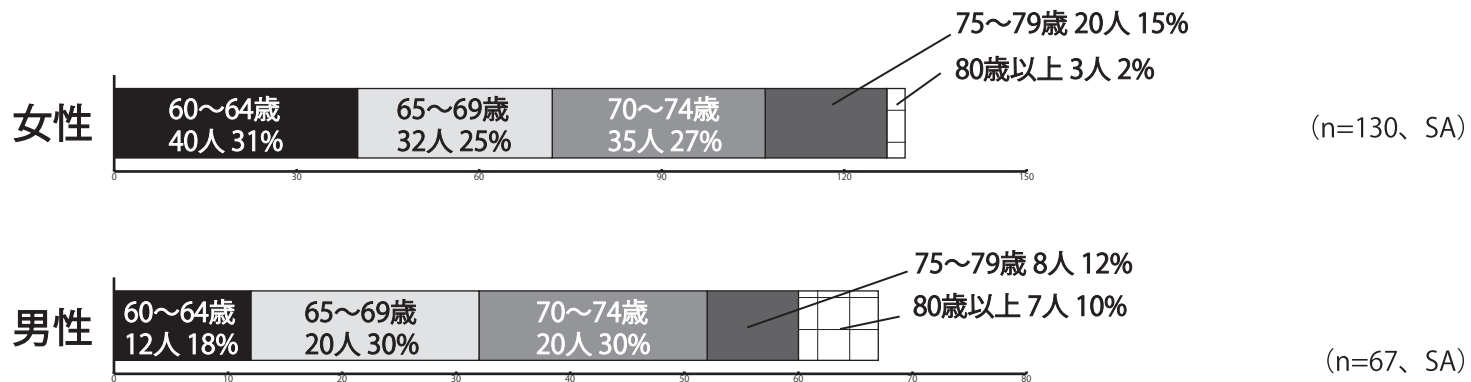
## 働く高齢者の割合 (Q9-1)

(n=591、SA)



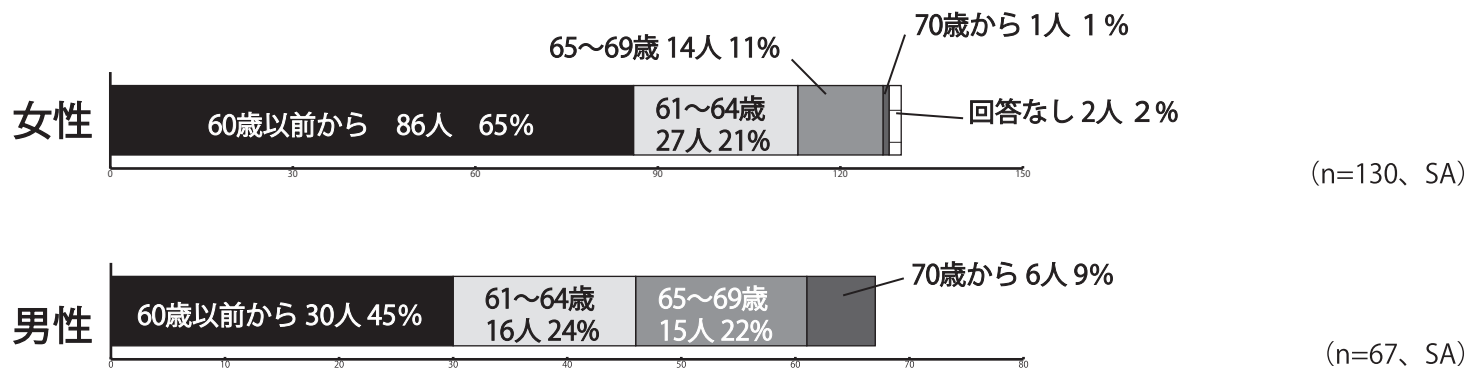
## 働く高齢者の年齢 (Q9-2)

(n=197、SA)



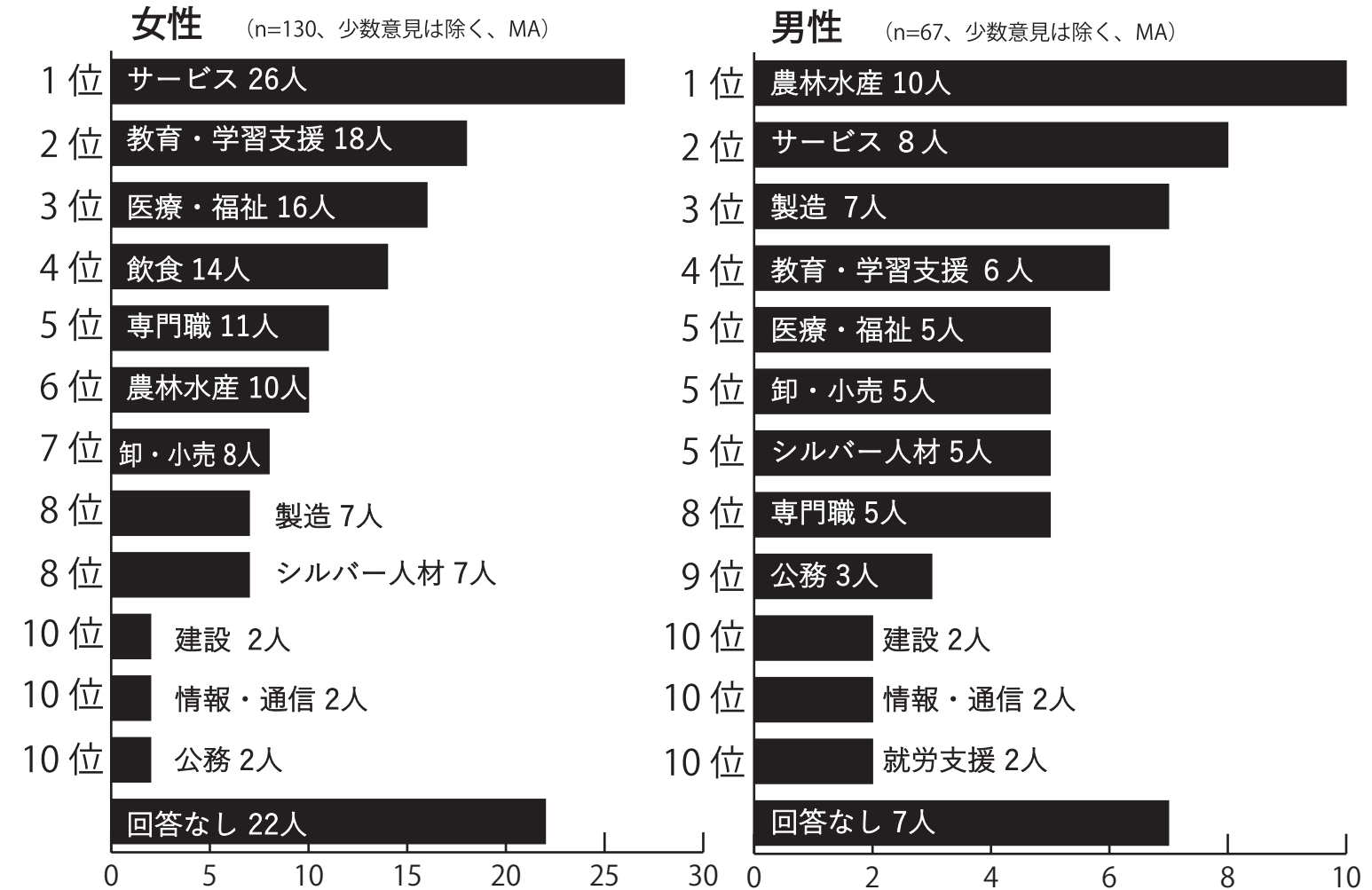
## 現在の仕事に就いた時期 (Q13)

(n=197、SA)



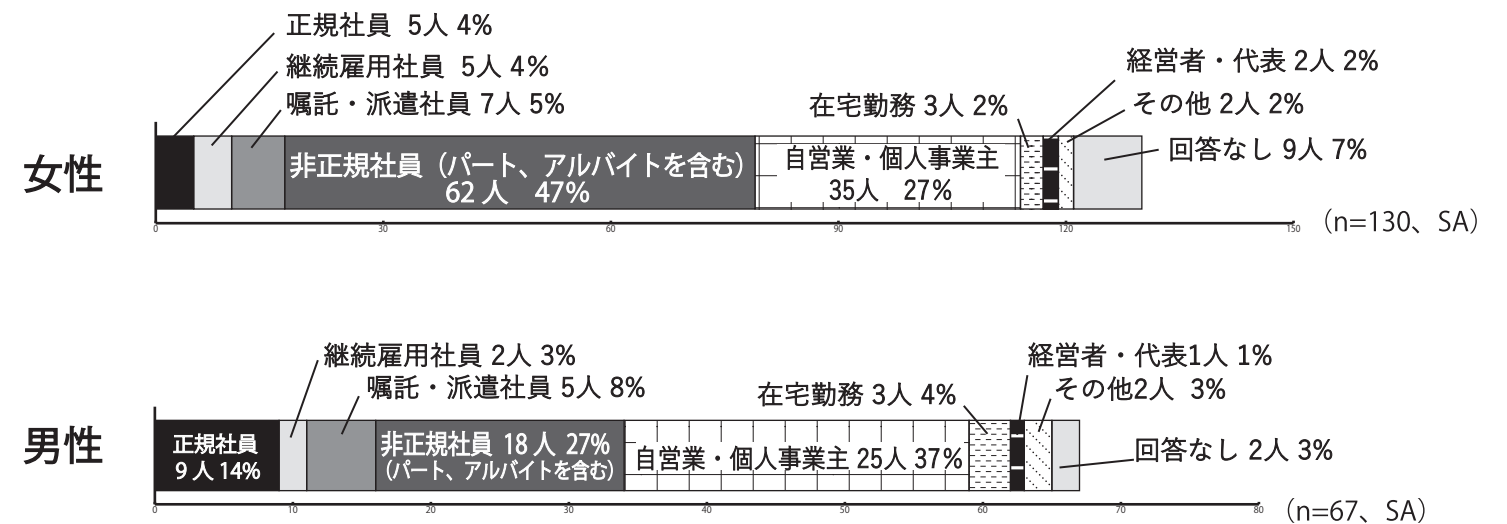
## 高齢者の仕事ベスト 10 (Q10)

(n=197、少数意見は除く、MA) ※複数回答可



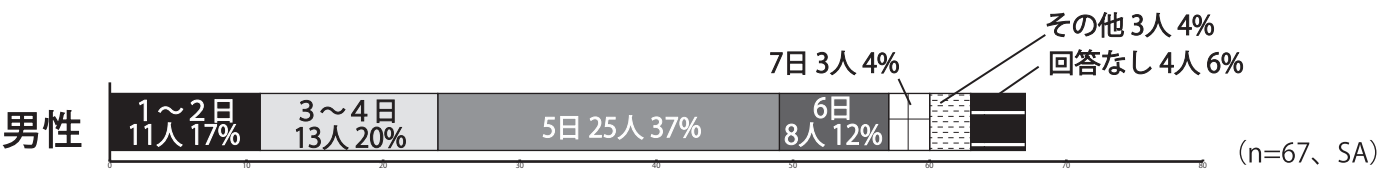
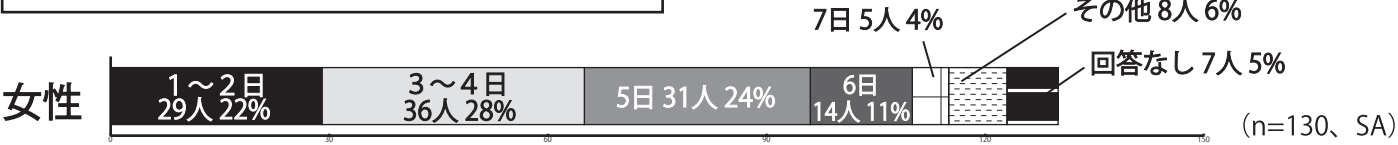
## 雇用形態 (Q11)

(n=197、SA)

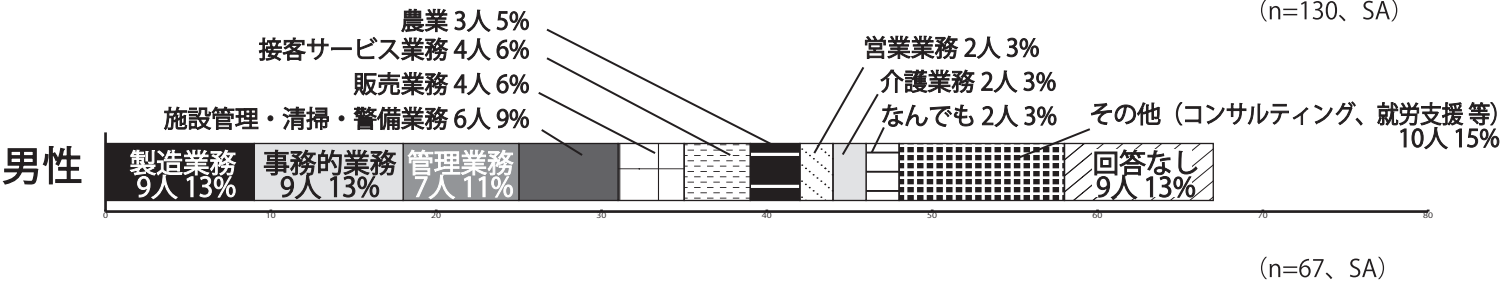
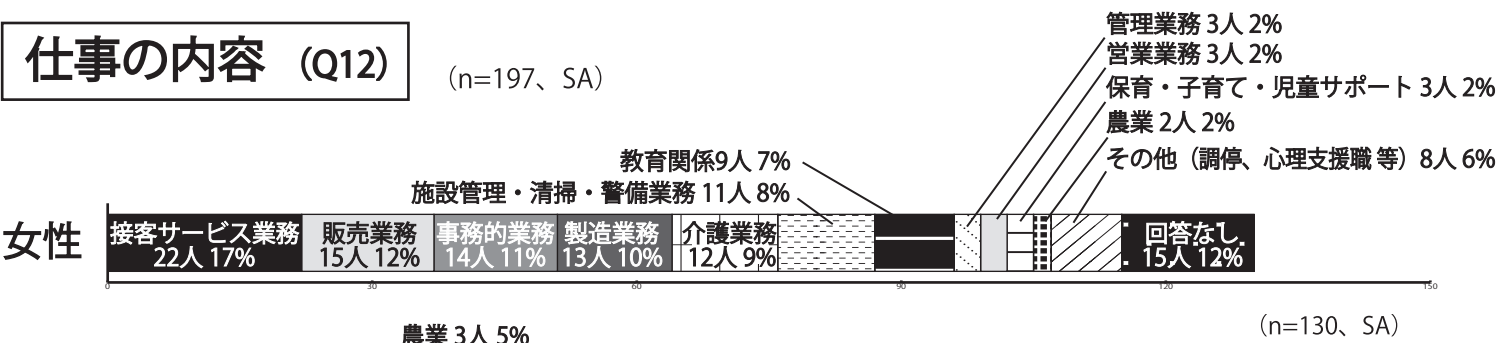


# 高齢者の有償労働 (2)

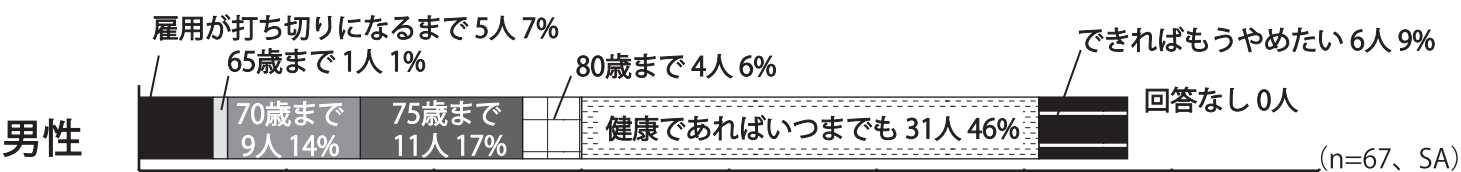
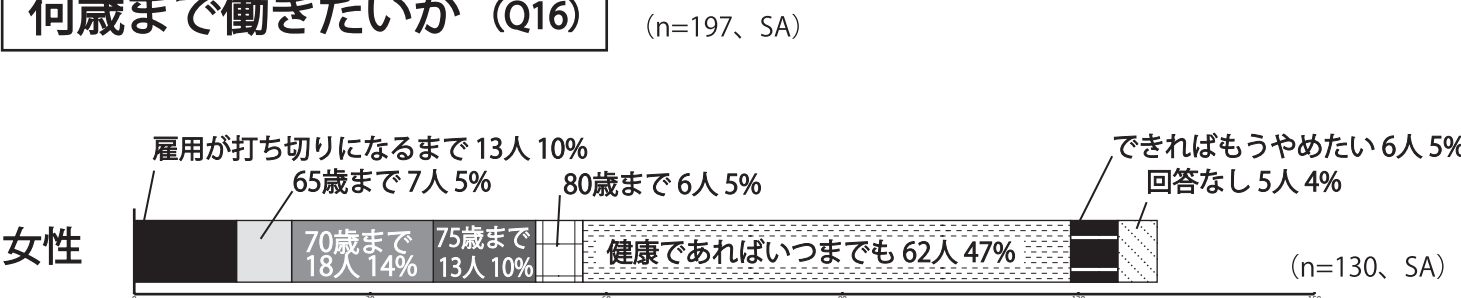
## 週に何日働いているか (Q9-3)



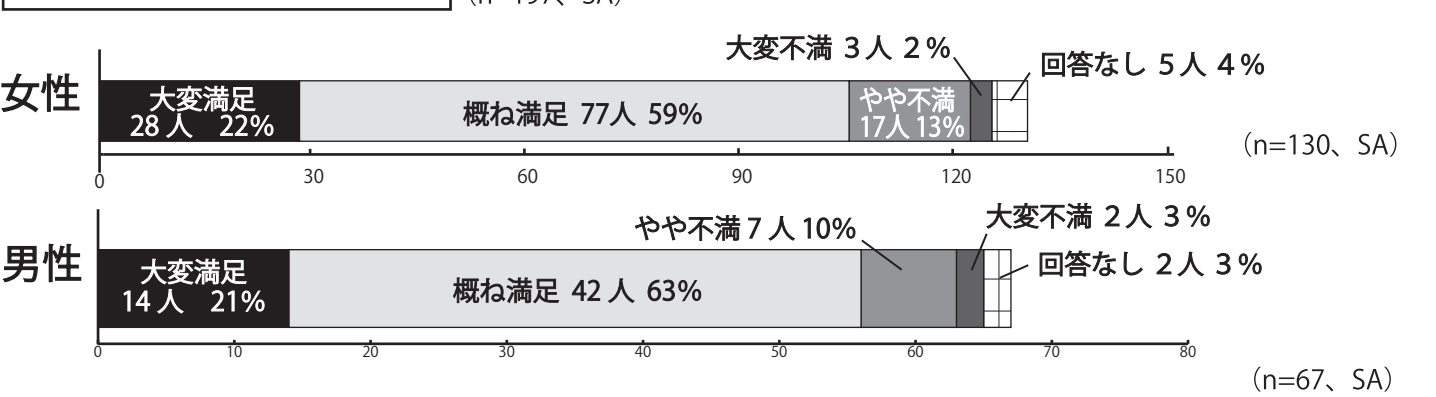
## 仕事の内容 (Q12)



## 何歳まで働きたいか (Q16)



## 仕事の満足度 (Q15)



## 満足の原因

- (n=161, FA)
- 女性**
- 楽しい・やりがいがある 5人
  - 好きな仕事だから 5人
  - 人のためになっている 5人
  - 社会貢献できるから 5人
  - 自分の都合に合わせてもらえるから 5人
  - 自分に合っている 2人
  - 体力的に合っている 2人
  - 学べるから 2人
  - 自身の自立の一助になっている 1人
  - 毎日元気でいられる 1人
  - 子どもたちに音楽を通して伝えたいことが伝えられるので 1人
  - 平凡な主婦だった自分が社会の一員になり「奥さん」でなく「〇〇さん」として扱ってもらっているから 1人
  - この年で仕事ができるから 1人
  - 慣れているから 1人
  - スタッフと共に願う目標に向かっていけるため 1人
  - 生徒との交流、新しいレシピのために毎月研究会へ出席(東京)するため 1人
- (n=105, FA)
- 男性**
- 資格・知識を活かせるから 2人
  - 自分の考え・ペースで仕事ができる 2人
  - 楽しい・やりがいがある 2人
  - 働けるから 1人
  - 継続できている 1人
  - 職場の仲間に恵まれている 1人
  - 運動の一部 1人
  - 独居により生活困難(主に通院・買物)な方の手助けができるため 1人
  - 勤務時間が短い 1人
- (n=56, FA)

## 不満の原因

- (n=29, FA)
- 女性**
- 賃金が安い 2人
  - 体が思うように動かない 1人
  - 年齢のため 1人
  - 仕事量が多い 1人
  - 適当な労働時間 1人
  - やりたい仕事ではないから 1人
  - 余裕がない 1人
  - 不満ではなく大変(主人の足が弱り仕事ができず私一人の農作業なので) 1人
- (n=20, FA)
- 男性**
- あまりやりがいがない 1人
  - やりたい仕事ではない 1人
  - 理念から遠い現状 1人
  - 満足な収入が得られない 1人
  - 借地(田)が多くなりすぎ 1人
- (n=9, FA)



令和元年（2019年）の総務省統計局「労働力調査」<sup>(2)</sup>によると、日本の65歳以上の高齢就業率は24.9%で数にすると892万人、過去最多となった。就業率を性別に見ると、男性が34.1%、女性が17.8%である。特に65～69歳の就業率は、男性が58.9%、女性は38.6%と、年々増加している。本調査では、高齢者が行う労働を対価の伴う有償労働と家庭内で行う家事や介護などの無償労働に分け、調査を行った。その結果、回答者591人（60-64歳69人を含む）の内、●働く高齢者の割合（Q9-1）は、女性130人（30%）、男性67人（42%）であった。

●就業者を年齢と性別（Q9-2）でみると、女性は60-64歳が31%、65-69歳が25%と、60代が全体の56%を占める。また、女性就業者の44%が70代以上であった。男性は、60-64歳が18%、65-69歳が30%と、60代が全体の48%を占める。また、70-74歳が30%、75-79歳が12%、80歳以上が10%と、男性就業者の52%は70代以上である。

高齢者は、どの様な仕事に就いているのであろうか。●高齢者の仕事（Q10）は、女性はサービスが最も多く、教育・学習支援、医療・福祉と続く。一方、男性は農林水産が最も多く、サービス、製造と続く。

●現在の仕事に就いた時期（Q13）は、男女ともに60歳以前からの仕事を継続する人が最も多く、女性が65%、男性は45%であった。一方、61-64歳に就いた女性は21%、男性は24%である。さらに65歳以降に就いた女性は12%であるのに対し、男性は31%と、男性の方が女性よりも高齢になっても就労意欲が衰えていない傾向にある。その背景には、日本社会に根強く残る「稼ぐ男、家庭を守る女」という性別役割意識が高齢男性を仕事に駆り立てているのではないかと考えられる。

●高齢者の雇用形態（Q11）をみると、47%の女性が非正規社員で働く。男性の非正規社員が27%であるのに比べ、女性の非正規社員率は20ポイントも高い。世代を問わず女性の非正規率の高い実態が本調査でも明らかとなった。一方、男性の雇用形態で一番多いのは、自営業や個人事業主であり、次に非正規社員である事から、高齢者の雇用形態においても男女格差が認められる。

高齢者の勤務状況として●週に何日働いているか（Q9-3）についてたずねた。女性は、週3-4日が28%、週5日が24%、週1-2日が22%で、週7日が4%いる。男性は、週5日が37%、週3-4日が20%、週1-2日が17%で週7日働いている人が4%いる。

●高齢者の仕事内容（Q12）の特徴として、女性は接客サービス業務17%、販売業務12%、介護業務9%など、コミュニケーション能力が求められる職種に就く傾向が高い。一方、男性は事務的業務13%、管理業務11%、施設管理・清掃・警備業務9%など、判断能力が求められる職種に就く人が多かった。また、子育て支援や調停委員、コンサルティングなど、高齢者としての豊富な経験や専門性を活かし、社会支援をする人もいる。

就労する高齢者に●何歳まで働きたいのか（Q16）たずねた。「健康であればいつまでも」とする人が男女ともに50%近くと、圧倒的に多かった。次に女性は70歳までが14%、75歳までが10%と続く。男性も70歳までが14%、75歳までが17%と、多い。その反面、「できればもう仕事をやめたい」とする人が男性、女性ともに6人いた。

仕事に対する意欲は、●現在の仕事に対する満足度（Q15）と大きく関係する。「大変満足」「概ね満足」と答えた女性は81%、男性は84%と、非常に高い。満足の理由として、楽しさ、やりがい、資格が生かせる、社会貢献を上げた人は男女ともに多い。また、「能力的にも体力的にも自分に適した仕事」と捉える女性が多いのも特徴であった。一方、不満足の理由として、「賃金が安い」「やりがいがない」「やりたい仕事ではない」とする人も一定数見られた。

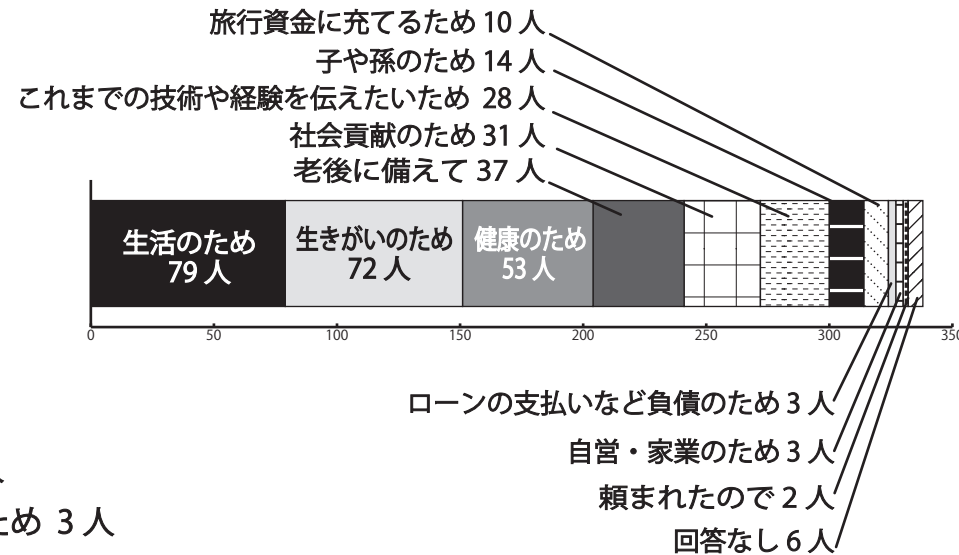
●高齢者が働く理由（Q14）として、「生活のため」「余裕を持った暮らしを営む金銭を得るため」とする経済的な事情。「健康維持」「培った経験や技術の伝承」といった生き甲斐に直結する理由の二極化傾向が見られた。そのどちらも高齢者が抱く偽らざる思いであろう。

今回の調査で●就労していない女性（Q9-1）は、回答者全体の67%（292人）。男性は57%（90人）で就労していない人の方が多い。彼らが●働いていない理由（Q17）は、「定年まで十分に働いたからゆっくりしたい」（女性90人、男性45人）、「仕事以外の趣味や活動をしたい」（女性119人・男性31人）、「経済的に働く必要性を感じない」（女性48人・男性15人）が男女ともに多く、全体のおおよそ90%を占めた。これらの事から、本調査の回答者は、恵まれた生活背景を持つ高齢者が多いことがうかがえる。一方、「仕事を探したが希望の職種が見つからなかった」とする女性は12人、男性は6人いる。また、「面接を受けたが年齢で断られた」とする男性は0人なのに対し、女性が14人いることを考えると、高齢者女性にとって、就労の機会が多いとは言えず、男性優位の傾向にある。

### 働く理由ベスト 10 (Q14)

(n=197、少数意見は除く、MA) ※複数回答可

- 1位 生活のため 79人
- 2位 生きがいのため 72人
- 3位 健康のため 53人
- 4位 老後に備えて 37人
- 5位 社会貢献のため 31人
- 6位 これまでの技術や経験を伝えたいため 28人
- 7位 子や孫のため 14人
- 8位 旅行資金に充てるため 10人
- 9位 ローンの支払いなど負債のため 3人
- 9位 自営・家業のため 3人
- 11位 頼まれたので 2人
- 回答なし 6人



### 現在働いていない理由 (Q17)

(n=382、少数意見は除く、MA) ※複数回答可

